

### 1 自己評価および外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500038		
法人名	有限会社 ナチュラル・ライフ		
事業所名	グループホーム恵寿		
所在地	岐阜県中津川市中津川950-25		
自己評価作成日	平成23年8月25日	評価結果市町村受理日	平成23年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2191500038&amp;SCD=320&amp;PCD=21">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2191500038&amp;SCD=320&amp;PCD=21</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所し4年目となりました。建物の作りは今まで認知症ケアを実践してきたノウハウを生かし、認知症の症状を少しでも緩和し利用者様が安心して生活できる環境を提供できるようになっています。また、スタッフに関しても、法人独自の研修を取組、『尊厳のあるその人らしい生活』を目標とし、より良いケアを目指し取り組んでいます。地域との交流も日頃行っており、利用者様が地域の方と交流ができる取り組みと地域の方に認知症という病気を理解して頂ける働きかけを積極的に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな郊外の小高い丘の上にある2階建ての落ち着いたホームである。利用者は、恵まれた自然環境の中で、穏かに安心して生活を享受している。法人の掲げる「尊厳あるその人らしい穏やかな生活が送れる」を実践するために、独自の研修制度を設けている。職員一人ひとりに合わせた、教育計画に基づく人材育成を行い、専門性を高め、認知症状を緩和するケアを実践している。事業所も地域住民として地域に溶け込み、様々な地域活動に積極的に関わっている。さらに、これまで積み上げてきた認知症ケアの実践経験を地域にも還元し、地域と互いに支え合いながら、利用者の豊かな暮らしにつなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	[尊厳のあるその人らしい穏やかな生活]が送れるよう理念を掲げ目指している。	「尊厳あるその人らしい穏やかな生活」を送れるよう理念を掲げている。ホーム事務室前の壁に掲示しており、職員は、出勤時に確認し、共有している。また、職員会議やケアの中で、理念の原点に立ち返ることで、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の中でお年寄りの方が多く、散歩時等に利用者様とコミュニケーションをとっていただく働きかけをしている。コミュニケーションの場として東屋を設置している。	自治会に加入し、地域の防災訓練や地域の行事に参加して、地域の人々と日常的に交流している。ホーム内のある東屋は、地域のコミュニケーションの場として、開放している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関する講演会を取組、地域の方に認知症の理解を深めていただける機会を作っている。自治会長とも連絡を密にし、地域行事に積極的に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方には推進会議の中で日々の生活を伝えている。自治会長とも連絡を密にし、地域行事に積極的に参加している。また、施設独自の行事(夏祭り)を取組んだり、合同での防災訓練を行うなど交流する機会を増やしている。	2ヶ月に1回開催し、自治会長・民生委員・家族の代表の出席を得て、ホームの近況報告・地域行事や、防災対策などを話し合っている。地域との連携は、自治会長の協力を得ながら、サービスの向上に結び付けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に市担当者とは連絡を取り、事業報告及び市の意向等を確認しながら取り組んでいる。月に一度の介護相談員の訪問があり、意見等を頂く機会がある。	市主催の研修会や市内のグループホームの連絡会議に参加して情報交換をしている。また、定期的に市の担当者と連携がとれている。子どもの駆け込み110番や介護相談員も受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。身体拘束をしないケアの継続と、身体拘束廃止の重要性を職員に理解してもらえるよう努めていきたい。	身体拘束・虐待はされていない。利用者の意思を尊重するケアを基本としているが、まだ、全職員に身体拘束をしないケアを周知徹底する課題が残っており、今年度の内部研修計画に取り入れている。	全職員が身体拘束禁止の意義を理解し、具体的な行為と弊害を正しく認識した上で、さらにより良いケアに結び付くよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時、研修実施しています。入社後も継続的に虐待防止への意識について促してまいります。		

岐阜県 グループホーム恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開所以来、成年後見制度や地域権利擁護事業についての研修機会が作れていないため、全スタッフの周知には至っていない。今後外部での研修に積極的に参加し、参加者が他スタッフへの周知活動を行えるような取り組みをしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり、契約内容、制度の説明等を行い、理解・納得していただける働きを行っている。又契約後も定期的に連絡を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の希望をケアプランに反映させ、利用者、家族、スタッフがそれを周知しケアに反映できるよう取り組んでいる。又、行事計画等にも反映させる取り組みをしている。	ケアの中で利用者の意向や要望を受け止めている。家族からは、電話や面会時に聞き取っている。なんでも言いやすい雰囲気づくりを心がけ、提案された意見や要望は、事業運営や介護計画等に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員には責任をもって業務を持ってもらい、そこから各個人の意見を管理者が把握できる時間を設けている。又定期的に面談等の意見提案をできる時間を設けている。	法人代表と職員とは、定期会議や個人面談で、意見や提案する機会が設けてある。職員からは、「利用者にとってはどうなのか」と考えるケアの提案が出され、業務改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが働きやすい環境であるよう、定期的に面談を取り組みスタッフの意見を聴き、修繕等に反映できるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人独自の研修プログラムを作成し、個人個人に合わせた研修に取り組んでいる。又、プログラムについても定期的に見直しを行い、質の向上を目指しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内独自で同業者を行う会議を定期的に行い、意見交流に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の相談時は必ず本人の面談を行い、ご本人様の気持ちやご要望の聞き取りを行っている。職員もご本人との関係づくりを積極的に行い、ご本人が話しやすい雰囲気を作り不安を受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの情報は細かな部分も聞き取り、受け止めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、問題点を見極め、担当ケアマネと連携をとりながら、他のサービス利用の可能性については情報交換を行います。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ空間で時間を共に過ごす中で、お年寄りから学ぶこと、一緒に楽しむことで支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等の段取りも早めに行い、スタッフと共に利用者様を支えていただける関係作りを心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方が利用してきた美容院や友人等の面会も調整行います。	理容店の継続利用や、毎週の面会時に親子で楽しむ囲碁、家族による散髪等、馴染みの関係をととても大切にしている。また、利用者の要望があれば、遠出のドライブや墓参りなど、家族の協力を得て支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の行動障害を見極め、利用者様同士でもスタッフが関係作りの懸け橋となり、積極的に交流して頂ける働きかけをしています。また、利用者様同士が支え合う場面を作れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後については、利用者様の状況に合わせてご家族と連携を取るよう心がけています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の生活歴を把握し、ご本人の希望や意向もくみとれるよう努力している。	センター方式を活用し、利用者・家族の意向や思いを把握し、個人カルテに記録し、職員で共有している。利用者ごとの担当制により、よりきめ細やかに一人ひとりを把握し、寄り添うケアに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族からの情報も含め、ご本人の生活歴や環境の情報収集に努めている。入居後もご本人ご家族からの情報を随時把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する利用者の状態に応じて対応するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、ご本人の表情や言動の原因把握に努め、意見やアイデアを出し合いながら介護計画を作成している。	担当職員が、日々の表情・行動・言動をくみ取り、家族の意見や日々の記録から、介護計画を立案している。職員会議で提案されたアイデアやケアマネジャーの意見を聞きながら、安心でよりよい日常生活を送る事が出来るような個別性を活かした介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に記入し情報を共有している。また個人カルテを作成し、スタッフが利用者の情報を把握しやすいような取り組みも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他事業所より当施設への転居の際、ご本人の状況やご家族の思いをくみとって、タイミングを見ながらスムーズに行えることができ、ご本人にとってもダメージを最小限に抑えることができたと思われる		

岐阜県 グループホーム恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアにも定期的に入っていたり、民生委員を通して、地域のお年寄りとの交流が持っていたりするような取り組みをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院の先生にも、当施設の利用者様の状態を把握していただき、通院にもスタッフが付き添っている。	家族・本人の同意を得て、協力医をかかりつけ医としており、協力医への通院は職員が対応している。利用前のかかりつけ医を継続する場合は、家族に通院の同行を依頼している。歯科の往診もあり、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に4日看護師が勤務し、利用者様の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人の現状と今後の予測できる状態について、看護師やかかりつけ医と相談をし、早期退院に向けてできる限り連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で対応できることについても、かかりつけ医にも理解してもらい、状態の変化によっては他の機関とも連携が取れるような働きかけに努めている。	終末期や重度化した場合の対応は、契約時に説明しているが、その時々に応じて、本人・家族とかかりつけ医と相談しながら、検討し対応していく方針である。	終末期や重度化について、家族・本人の意思確認を文書化し、ホームの力量とケアの限界を見極め、関係者で共有されたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部への研修の機会を設けているが全スタッフには至っていない。外部及び内部研修の充実を図っていきたいです。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との合同での訓練と、施設独自の訓練を行い、災害発生時の対応は今後も強化していきたいと考えている。新人スタッフへの教育も含め、スタッフの災害に対する意識強化を目指したい。	ホーム独自の訓練に加え、地域と合同で、火災・地震等の防災訓練を行っている。防災時の炊き出し訓練も行っている。備蓄もあり、避難場所もホームから数分で行ける公民館が指定されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報にかかわるもの(記録・データ等)については扱い方のルールを徹底し、スタッフに周知してもらうよう努めている。	利用者の誇りやプライバシーを損ねない会話や言葉遣いに配慮している。人生の先輩として敬うケアを提供している。ケアを振り返り、互いに気づきを確認している。また、個人情報の取り扱いにも細心の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の力に合わせた働きかけをし、出来る限り自己決定をしてもらえるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所でのタイムスケジュールは、スタッフの業務スケジュール以外は作成せず、一日一日で利用者様に合わせケアに当たっている。(散歩・畑作り等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には昔から馴染みのある美容院等に行けるよう段取りを行っています。他の利用者様の中には家族に散髪してもらっていた利用者様も見え、そういった方にはご家族への調整を行い、交流も含め施設で散髪をする方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビング内にキッチンを設けており、全ての食事を利用者様の前で作ります。利用者様の状態を確認しながら、その人にできることを負担の無いように一緒に取り組みます。刻み等の処理が必要な利用者様へは一度目の前に食事を提供してから刻むような工夫をしている。	対面式のキッチンで、高齢者の知恵や調理法を学びながら、見守りを兼ねて、利用者の方で調理をしている。職員も一緒に同じ食事を摂り、旬の食材を話題に会話が弾み、楽しい時間を共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量を把握し、食事の形状や盛り付ける量を工夫し、おいしく食べられるよう支援している。利用者のなじみのメニューを取り入れられるようスタッフがメニューを作成しているが、今後カロリー等を考慮し、メニューソフトの導入を検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは徹底しています。		

岐阜県 グループホーム恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄時のサインを見極め、一人一人の排泄パターンや習慣を活かして、苦しい思いや辛い思いをしないように支援している。	利用者の排泄パターンを把握し、職員間で共有している。1人ひとりの習慣を活かし、トイレに誘導している。利用者の多くは、リハビリパンツから布の下着を使用できるようになり、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を積極的に支援し、食べ物についても工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望に沿った形で入浴できるよう努めている。	週6日の入浴ができ、最低でも3回は清潔保持ができるように支援している。入浴拒否のある人には、いろいろと話題を提供しながら、入浴を介助している。入浴時に利用者の本音を聴く事ができ、信頼関係を深かめている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間だけの睡眠時間を見るのではなく、昼間を通しご本人のペースにあった睡眠時間が取れているか確認をしながら支援をします。睡眠場所についても、その都度ご本人様の要望を確認し支援します。(居室・和室・テーブル等)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が服薬内容を把握しており、服薬状況の確認は徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人の生活歴や趣味を把握し、生活の中で出来ることを役割分担し、自身につなげるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の生活の中で、散歩や買い物に出かけ楽しみをもってもらっている。	日曜日の入浴を無くし、利用者と同じ向き合う時間として、ゆとり時間を設け、日常的に普段行けない場所や買い物の外出時間に宛てている。	



岐阜県 グループホーム恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今現在、こちらでお小遣い程度お金の管理はさせて頂き、定期的にご家族へ説明し、確認をして頂いています。希望があれば一緒に買い物に行く等対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現状としては、手紙のやり取りをされる利用者様の支援を行っているが、電話等の希望が出た場合には対応していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花や行事を取り入れ、見当識の障害がある利用者にも楽しく季節を感じていただける工夫に努めている。空間についても利用者様の状況に合わせて生活用品の配置を変える工夫もしている。	利用者と職員で別の出入り口、洗面所の壁に取り付けた歯磨きセットや、生活用品を配置し、我が家と思えるような様々な工夫がある。浴室・トイレ・キッチン等を中心に、居室があり、大きな窓からも四季が味わえ、自然の様子を肌で感じられる設計である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い空間ではあるが、一人一人が安心できる場所や、一人になれる居場所の工夫を取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前には使い慣れた物を持ち込んでいただくよう伝えていることと、その人らしい部屋作りに努めている。	居室の入り口には、取り外しができる木製の表札がかけてある。広いクローゼットが各部屋にあり、部屋を広く使用でき、利用者の馴染みのテーブルや整理筆筒、鏡台、家族の写真が飾られている。家族からの多くの絵手紙が梁に貼られるなど、家族の絆を感じる環境作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ただ単純に張り紙をするのではなく、利用者のどの部分が障害を受けいているのかを見極め、その方にあった対応を心掛けている。		